

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271500987		
法人名	有限会社UTASI		
事業所名	グループホームうたし		
所在地	長崎県佐世保市鹿町町下歌ヶ浦986番地38		
自己評価作成日	平成 30年 12月 7日	評価結果市町村受理日	平成 31年 3月 8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	平成 31年 1月 29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎年、介護教室を開催し地域の方々に多数参加いただき、好評をえています。ハンドケアやマッサージを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームの開設から15年目を迎え、ホームでこれまで行ってきた様々な取り組みが実を結び、入居者・家族・地域住民・職員が一体となった家族的雰囲気の中で和気藹々とした日常を過ごされている。ホームでは以前から地域住民との協力体制の構築に努めており、SOSネットワーク(緊急時の連携体制)を活用した入居者の見守りなど地域ぐるみで協力し合う関係ができています。ホームでは非常勤職員の配置によって休日取得の希望に沿うことができたり、働きやすい職場環境となるよう努めているほか、職員の資格取得の際には一定の費用負担を行うなど人材育成にも取り組まれている。代表者兼管理者を筆頭に、管理者及び職員間の人間関係も良好であることが窺える。また、近隣住民の中には当ホームへの入職を希望する方もおり、人材面でも安心できるホームと言える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 グループホームうたし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	設立時からの理念である「自分らしくあるがままに」を共有し職員は、入居者に応じた関わりを心掛け実践につなげている。	代表者兼管理者は、日頃から職員会議の折や職員一人ひとりに向けてホーム理念に込めた想いを話しており、職員の声掛けの仕方や対応などに入居者尊重の姿勢が窺える。ホームでは現在、更なる理念の実現に向けて介護福祉士を目指した実務者研修の受講を職員へ奨励している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	老人会、地区行事、中学生職場体験や幼稚園行事など可能な限り参加し、地域の方々との交流を深めている。また、行事の際は地域のダンスクラブの慰問をお願いし交流を図っている。	ホームと系列事業所合同で、認知症を題材にした介護教室を年1回外部より講師を招いて開催しており、入居者・家族・地域住民の多数の参加があっている。また、近隣商店や地域住民との間に緊急時の連携体制(SOSネットワーク)を構築し協力を得ることができており、交流も図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、介護教室を開催し、地域の皆さんに参加をして頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	資料や、手作りの新聞による入居者の動向や職員を含めた活動報告、研修報告を行い、参加者の意見も取り入れ、サービスの向上に努めている	運営推進委員の提案で『うたし新聞』を地域の文化祭に出展し、ホームの理解を深めてもらうなど、会議での意見をホーム運営に反映している。会議を欠席した委員には、質疑応答形式で詳細に文書化した会議録を次回開催案内とともに送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者の方に運営会議に参加していただき、事業所の情報や実績を伝えている。また、運営会議時には、市担当者からの意見や情報をいただき、協力、連携を図れるように努めている	ホームでは、佐世保市主催の各種研修会への職員の参加や市への提出書類の作成にあたって相談を行い意見・情報をいただくなど、市担当者との相談協力体制ができている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修には積極的に参加し、報告を行っている。また身体拘束廃止委員会にて職員会議で情報を共有し身体拘束をしないケアに努めている。	ホームでは、3ヶ月に1回医師・司法書士を構成員に加えた身体拘束廃止委員会を開催し、職員に対する研修も行っている。ヒヤリハットに対する職員の意識も高く、気づきは全て記録し職員間で共有するとともに、運営推進会議でも報告を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の規定や新聞記事の切り抜きなどを掲示し職員間で改めて情報を共有し、日々の振り返り等で虐待防止に努めている。また、研修にも参加し所内で研修報告を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、報告を行い、職員間での共有に努め、必要時には活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者、家族への説明時は、理解しやすいような言葉で、ゆっくり丁寧を心掛け、理解していただけるような言葉遣いを行い理解や納得ができるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活の中で観察や声掛けで、利用者の思いを引き出せるよう心掛けている、家族へのカンファレンスや運営会議、家族会に参加していただき、また面接時や電話などでも意見や要望を聞く機会を設けている。	ホームでは毎年行われる地域の花火大会の際に、焼肉会を兼ねた家族会を開催し意見交換を行っている。家族の想いをメモや連絡帳を活用して記録し、職員間で情報を共有している。代表者兼管理者・職員は日頃から家族との交流を図り、意見や要望をホーム運営に反映するよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から、職員が相談、提案しやすい環境づくりを心掛けている。また、毎月職員会議を開催し、職員の意見や提案を反映できるように心がけている。	ホームでは毎月のケアカンファレンスの際や食事介助後の時間等を活用し、職員間で意見交換を行っている。そこで出た職員の要望が取り入れられ、車椅子対応車の購入に繋がった。個人的な相談についても直接代表者兼管理者と話ができている。また、非常勤職員の配置によって休日取得の希望に沿うことができている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休がとりやすい取りやすい環境をつくり、また、職員一人一人の努力や実績勤務状況などを把握し、資格手当などを設け、やりがいが出るように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人が自分に必要とする研修に意識を持って参加できるよう促し、また研修に参加しやすい環境づくりに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム協議会に加入し、交流会や、研修会においてネットワークづくりができるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居予定者、家族には可能な限り来所していただき、説明や情報交換を行っている。またこちらから面接に出向きゆっくと傾聴し、信頼関係が築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所までに、本人、家族と話し合いをする場を持ち、要望にできる限り相談しやすい環境づくりに努め対応できるように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状態に応じたサービス利用の説明を行い本人、家族からの相談内容に適した支援ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、本人ができることを見極め役割、自信をもって生活できるよう職員と協力して家事手伝いをお願いしている。」		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の情報を共有し、家族の方にも相談しやすい環境づくりに努めている。本人、家族の絆を大切に、本人の支援をしていく関係を築くよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や、馴染みの方の面会、電話や手紙、外出支援、帰宅支援に努めて本人の希望に添えるように取り組んでいる	ホームでは入居者のこれまでの関係が途切れないよう、馴染みの場所への外出支援や入居者の誕生日に自宅近くまでドライブなどを行っている。また、コーラスを趣味とされていた方の集いへの付き添いや年賀状の作成を一緒に行うなど、入居者一人ひとりに合わせた支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他入居者との交流が図れるよう、体操や学習などの活動時には入居者全員に参加を促している。家事手伝いの際にもそれぞれ役割分担し協力し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者、家族の要望があれば、必要に応じた支援ができるように心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者本人や家族との会話を通して希望や意向の把握に努めるよう心掛けている。Hジョン人の思いがくみ取れるよう日々の些細な言葉を大切にしている。	意思表示が困難な方について、職員は言葉掛けに対する入居者の表情や態度の観察や日々の生活状況から想いを推察し、判断するよう努めている。家族の思いや要望などについては、面会時や受診報告を行う際などに汲み取るよう心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの情報を参考にし、生活歴や本人が望む暮らしが現在の暮らしに反映できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の生活の中で本人の心身状態にあった過ごし方や有する能力を発揮できる環境を提供し、本人の状態を把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者一人一人に担当者を設け、本人に合ったケアのあり方、今後の課題などを事前に話し合い、後日、ケアカンファレンスを開き、家族にも参加していただき、意見やアイデアを反映した介護計画の作成に反映できるように努めている。	ケアプランは入居者それぞれの担当職員がモニタリングまでを行い、ケア会議で評価し見直しを行っている。ホームでは介護日誌の中に実施するサービス内容を記載し、職員が一見できるよう工夫がなされており、支援の詳細は文章形式で記録している。また、入居時及び医療機関からの退院後には短期間のプランを作成し、適宜見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者一人一人の介護日誌への記録を残し、特変があった場合には付箋を用いて介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の今の状態にあったサービスが提供できるようスタッフ同士で話し合い、本人や家族の意見を取り入れニーズに対応し柔軟な支援ができるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事にはできる限り参加し、交流を図りながら良い関係を築き、一人一人が安全で楽しく生活が送れるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意見を尊重し、納得されるかかりつけ医を定期的を受診している。また、通院困難な方には往診をお願いしている。受診時には相談報告を行い、主治医や担当看護師との連携が図れるように努めている。	ホームでは入居前のかかりつけ医への受診に対応しており、受診時には入居者情報の書類等を持参し、受診結果の家族への報告も行っている。受診が困難な方については毎月往診にて対応していただいております。急変時の対応についても指示を仰いでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中で異常を早期発見できるよ心がけ、その都度、記録に残し、職員間でも情報を共有し看護師に相談報告を行い適切な対応ができるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時はできる限り病院に出向き病院関係者と情報交換や相談を行い、本人が治療に専念できるよう医療機関とよりよい関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	受診、往診の際、本人の状態を主治医と話し合い、家族への相談報告を行っている。ホーム内でできる範囲を見極め、医療機関や他事業所と連携して支援に取り組んでいる。	ホームでは現在、医療行為が必要となった時点で医療機関へと引き継ぐ方向で対応されているが、かかりつけ医の協力体制が得られることを条件として、今後はホームでの看取りに取り組む意向にある。	ホームでの看取り体制を整備する上で、医療機関との連携体制の構築や対応する職員への研修及び精神面でのケアなどの必要性が窺われる。今後の体制づくりへの取り組みに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備え、研修への参加訓練を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	消防署の方、専門の方に来ていただき、火災訓練、点検を行っている。地域の方にも緊急時の協力同意をいただいて災害、緊急時ネットワークを開設している。職員は日頃から意識を高め、火災を起こさないよう防火管理に努めている。	年2回の避難訓練の内1回は消防署立ち会いとなっており、職員は消火器使用も経験している。津波を想定した訓練も実施されており、入居者と一緒に避難場所まで移動を行っている。また、SOSネットワーク(緊急時の連携体制)等の協力体制が構築されており、入居者の見守りなど地域ぐるみで協力し合う関係が築かれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人を尊重し、状態に応じて、その方に合った言葉かけで対応できるように努めている。	『うたし新聞』への入居者写真の使用や新聞の文化祭出展にあたって、必ず家族の同意を得てから掲載や出展を行っている。ホームでは各種の記録類について適切な管理に努めており、電子化された記録に関してはパスワードを設定し、プライバシー保護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思い希望が言えるような雰囲気づくりを行い、自己決定や選択できるように働きかけ、本人の意思を確認して次の行動が行えるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の、その日の体調やその時の思いを尊重し、自分のペースで一日が過ごすことができるよう支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的、又は、本人の希望時に行きつけの美容室へ通ったり、職員が散髪整髪介助を行い本人に合った身だしなみができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の能力に合わせ、(野菜の皮むき、食器ふき)お手伝いをお願いしている。又、献立は事前に決めず入居者がその時食べたいものなど希望を聞いて食事を楽しめるよう工夫している。	ホームでは代表者兼管理者の親族でもある調理専門職員を中心に、無農薬野菜を使用した家庭的で健康に配慮した食事の提供がなされている。偏食、アレルギーがある方については代替食にて対応されており、受診時等を利用した外食の機会も設けられている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各々に応じた摂取量や、形態、服薬作用など考慮している、また、十分な水分量が確保できるよう、一日の水分量を把握できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人に声掛けを行い、見守り、一部介助を実施している。観察を行い、歯科医療受診時、報告し連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者それぞれの排泄パターンを把握し、状態に応じた声掛けや介助を行っている。常時おむつ着用の方でも日中安全確認の上でトイレで排泄できるよう支援している。	ホームでは、座位保持が困難な方についてもできる限りトイレでの排泄を促している。職員は排泄チェック表を使用し入居者の排泄パターンの把握に努めており、入居者が重度化される中でもトイレへ誘導することによって現状維持に繋がっていることが窺える。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の食事や水分量を考慮し、またできる範囲での体操に参加を促し、適度な栄養と運動に考慮している、薬剤服用の際には主治医との連携を図り対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	季節に合わせた入浴支援の実施。お湯の温度や、本人の対朝 希望やタイミングに合わせた声掛けを行い入浴を楽しめるように支援している。	ホームでの入浴は月曜日から土曜日までの午前中に入浴可能となっており、湯温は40℃を目安に、熱い湯を好まれる方についても追い炊きでの対応がなされている。入浴を拒否される方については翌日に入浴ができるようにしている。また、ゆず湯や菖蒲湯など季節感を感じられる工夫も行われており、配慮が窺われる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温調整等の環境整備を行い、休息、安眠できるように支援している。日中に活動できる時間を設け、夜間良眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤説明書を通院記録に添付し、職員全員が確認できるようにしている。内服変更時には、記録、申し送りを徹底し、状態の変化を確認を確実にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	力に応じた役割を持ち、張り合い、喜びを持てるよう支援している。また、学習ドリルの取組、気分転換には散歩などを実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の花見には毎年出かけている、また希望により散髪や買い物食事の支援に取り組んでいる。誕生日にはほんにんのきぼうも考慮し等でのドライブも支援している。	ホームでは花見などの行事やホーム近隣を職員付き添いにて車椅子で散歩するなど、外出支援に取り組まれている。家族対応で外泊する機会もあり、自宅での介助方法などについてのアドバイスを職員より行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出の際や本人の希望があるときは個人で好みのものを購入されたり、自由にお金を使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には対応できるよう心掛けているまた個族から贈り物が届いた場合は、直接本人が話せるよう準備し支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度調節や清潔保持に努めている。リビングには地域の方が育てられた花を飾ったり入居者の作品や写真広報誌などを展示し生活感を取り入れ居心地のよう自然な生活空間づくりに心がけている。	ホーム共用空間の室温は25℃を目安に調整し、食後のモップ掛けや換気、消臭剤や空気清浄機の使用によって清潔な空間を保つことができている。また、共用空間のテーブルや椅子などは入居者目線で設置されており、過ごしやすい空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人思いのまま過ごせるよう椅子、ソファの種類や配置を考慮し、椅子の種類や座席位置など工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に家族にも説明し、出来るだけ使い慣れた物、好みのものを用意したり、必要なものは本人と一緒に買い物に行き気に入ったものを購入するなど、本人が居心地の良い空間になるよう配慮している。	居室への持ち込みについては火器類以外可能となっており、制限などは設けていない。仏壇や使い慣れた家具類、家族写真等が自由に持ち込まれており、落ち着ける空間となっている。本人の身体状況の変化によって居室の様態替えが必要な場合には、家族に説明し同意を得て対応している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に手すりを配置し、靴を履くためのベンチの設置など、入所者が安全に持てる力を発揮し、出来るだけ自立した生活ができるよう工夫している。		